

会 議 録

会議の名称	第1回小金井市産業振興プラン策定委員会
事務局	市民部経済課産業振興係
開催日時	平成27年6月29日(月) 午後4時～午後6時
開催場所	前原暫定集会施設 C会議室
出席者 (12名)	委員長 福田 委員 副委員長 正木 委員 阿久津 委員 日野 委員 益田 委員 今井 委員 石黒 委員 鴨下 敏明 委員 鴨下 洋 委員 高杉 委員 長島 委員(代理:嵯峨氏) 藤本 委員
傍聴の可否	<input checked="" type="radio"/> 可 ・ 一部不可 ・ 不可
傍聴者数	0人
傍聴不可等の理由等	なし
会議次第	1. 趣旨説明 2. 市長あいさつ 3. 委嘱状交付 4. 委員紹介 5. 正副委員長選出 6. 会議録等について 7. 議事 8. そのほか

<p>会 議 結 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長に福田委員が、副委員長に正木委員が就任した。 ・会議録の調製方法は、発言者の発言内容ごとの要点記録で、発言内容を要点にして記録し、発言者の氏名は原則公表することとし、率直な意見の交換や、意思決定の中立性の確保のため、必要なときはあらかじめ委員会に諮った上で、発言者の記載を省略することができることとした。
<p>発言内容・ 発言者名 (主な発言 要旨等)</p>	<p>発言内容</p> <p>議事 1. 現行プランの事業進捗について</p> <p>◎福田委員長 今日の委員会の目的として、前回の振興プランの事業の進捗を確認することが一つ挙げられる。まずは専門用語の説明や内容の掘り下げを行いたい。</p> <p>◎高杉委員 評価は文字で見ても判断がしにくい、指標化などはできないのか。</p> <p>◎福田委員長 事業効果について目標到達度などを客観的にわかるものを提示していただきたい。</p> <p>◎事務局 個別の事業の着手状況については、提示することはできる。</p> <p>◎福田委員長 次回委員会までにご準備いただきたい。</p> <p>◎事務局 委員会前までに準備して配布する。</p> <p>◎鴨下(敏)委員 「支援する」や「推進する」はどの様な使い分けがあるのか。「支援する」が金銭的な意味合いを含むのであれば、費用対効果などを知りたい。</p> <p>◎事務局 使い分けは特にない。</p> <p>◎日野委員 個別の事業者の取り組みは評価できるが、市民に伝わっていない印象がある。取り組みの方向性について教えていただきたい。</p> <p>◎高杉委員 農家では市内の学校へ給食用に地元野菜を提供している。</p> <p>◎日野委員 武蔵小金井駅の南北に公園があり、子育て世代を中心に週末にぎわっている。昔、野菜の庭先販売マップをもらい、大変ありがたかったので、公園に来ている方々が入手しやすい形にしてはどうか。</p>

- ◎**福田委員** 個別の取り組みがターゲット層に届いているのかを確認することは重要である。例えば学生層に情報発信をするためには facebook や twitter などの多様なツールを活用することが重要である。
- ◎**鴨下（洋）委員** 他市から小金井市を訪れる際、観光協会の Web サイトが最も参考にされると考えており、情報発信の充実を計る必要がある。現状の Web サイトは階層が複雑で、使いにくい。
- ◎**正木副委員長** 情報の受け手の力（受信力）の育成が重要である。世代によって情報を受けるインフラが異なることを意識する必要がある。
- ◎**藤本委員** 市の Web サイトは今年度刷新する予定であり、策定委員会の議論を参考にしたい。
- ◎**正木副委員長** 市の Web サイトはどこまで情報を取り扱うのか。情報階層の複雑化を避けるためにも、ゴミ回収のアプリケーション開発のような取り組みが重要であると考えている。
- ◎**日野委員** 回遊性の確保が重要になると考えるが、市内の資源を結び付けている組織は黄金井の里ということか。
- ◎**事務局** 黄金井の里が担ってきた役割については、整理した上で来年度からは中間支援組織が担うことを考えている。
- ◎**鴨下（敏）委員** 市内に大学などの教育機関が多く、個別の機関が地域おこしに協力してくれているが、熱心に取り組んでくれる方が卒業などで離れてしまうと単発の取り組みで終わっている印象がある。学校間の連携などを促すべきではないか。例えば、ベンチャーポート入所企業支援で「受け皿が確保できず」とあるが、教育機関同士の連携があれば、こうした結果にはならなかったのではないか。
- ◎**正木副委員長** 市民の方々と協力して、開かれた大学作りを進めたいと考えている。かつては地域インターカレッジをつくることも検討していた。
- ◎**鴨下（敏）委員** 若い人の柔軟な発想が求められる。
- ◎**高杉委員** 市内のイベントへの出展を促されることがあるが、直前に依頼をされても協力しにくい。コーディネートをしてくれる存在

が必要である。

- ◎**福田委員長** 多方面での連携、情報共有は極めて重要である。本日の資料を見ても、市で把握している分だけであり、中間支援組織による情報把握が求められる。また、大学のあり方について教育と研究以外に、地域課題の解決など地域とのつながりが求められるようになってきていることを踏まえると、大学全体として地域に関わることができる組織作りも重要である。

議事2. 現行プラン改定の方向性について

- ◎**高杉委員** 「コト消費」とは何か。
- ◎**事務局** その場所で時間を過ごす、雰囲気を楽しむ「こと」に着目している。個別の事業をつなぐことで魅力を創出するという問題意識から提示した。
- ◎**日野委員** 産業プラン全体の目的(市のイメージ)は作らないのか。
- ◎**事務局** 産業分野ごとにイメージを形成することは重要であり、委員会内でご議論いただきたい。
- ◎**鴨下(敏)委員** 東京オリンピックが開催されることも具体的でわかりやすいので結び付けるべきではないか。
- ◎**福田委員長** プラン作りは2つのルートがある。1つは明確な構想があり、個別の事業を検討する形式である。もう1つは事業を積み上げて構想に収斂させる形式である。どちらも一長一短である。生活と産業の一体化などをうまく言い表せる方法
- ◎**正木副委員長** 理念によって参加者を募ることが重要であり、5年後を見据えた理念作りが重要である。
- ◎**今井委員** 学生が地域おこしに参加することは商売的に考えてうまくいくものなのか。
- ◎**正木副委員長** 学生にとってはプラスが大きいが、事業者にとっては未知数である。
- ◎**日野委員** 情報発信について最新の知識やアイデアがあるので、ソフト面では戦力になるのではないか。
- ◎**正木副委員長** 学生は他世代と関わる経験を有し、人間関係が生まれることで、知り合いのお店に足を運ぶきっかけになる。

◎**益田委員** コト消費の観点では重要である。飲食では「何を」食べたかではなく、「誰と」食べたかが重要である。一方で、オリンピックが終了した後、景気の反動が来ることは避けられないと思われるので、その後を見据えたプラン作りが重要ではないか。

◎**嵯峨代理委員** 地方版総合戦略の策定が同時に進んでいると思われるが、産業振興プランにも影響を与えると考えられるので市内での調整が必要ではないか。

◎**事務局** 総合計画の基本構想策定も同時に実施しており、所管課から照会があれば回答しているが、特別な調整はしていないため、今後の課題としたい。

◎**日野委員** 小金井市は素晴らしい文化・歴史・自然を有しており、今後も引き続き保全することが重要であり、プランの土台となるものではないか。また、現行プランのキャッチコピーの「黄金井ビジネス」はわかりにくいので、市民が共有しやすいテーマが必要ではないか。

◎**福田委員長** 今回はこれまでの5年間の取り組みを踏まえた上で、テーマを意識しつつ、個別の取り組みを検討する進め方がよいのではないか。個別の取り組みを検討する中でテーマを見出していきたい。先ほど今井委員より学生と地域おこしの関係性についてご意見があったが、私の関わっている取り組みとして、横須賀中央上町商店街と関東学院大学で協定を結んで、多年度に渡って年3回大きなイベント（事業）を実施している。学生と商店街ができる範囲で、長期的な視野にたって取り組むことが重要ではないかと考えている。

◎**阿久津委員** 福祉についての情報が不足しているので後ほど提供したい。

◎**高杉委員** 事業を検討するためには現状の課題を把握する必要がある、関連する基本的なデータ（例：空き家や空き店舗率、老年人口の割合など）を示して欲しい。

◎**福田委員長** 社会的な課題に取り組むソーシャルビジネスなどの役割も重要である。ビジネスを成立させるための機関として中間支援組織が必要である。それはリタイア組かもしれないし子育て層かもしれない。中間支援組織（取り組み）を例示していただけるとあ

	りがたい。
提出資料	資料1 現行プラン策定後の推進事業の進捗 資料2 小金井市産業振興プラン改定の概要とスケジュール
その他	第2回策定委員会は8月31日（月）15時より開催する。